

開講年度／Academic year	2023年度	開講開始学期／Start date	春学期
授業コード／Course code	K6090	授業名／Course title	経済各論(水産資源経済学)/経済各論1(水産資源経済学)
授業区分／Course classification	講義	単位数／Credits	2単位
曜日時限／Period	水曜2限	教室／Classroom	8502教室
担当教員／Instructor	阿部 景太	科目ナンバリングコード／Subjects numbering code	ECO22920
キーワード／Keywords	水産資源、漁業、養殖、ブルーエコノミー、持続可能性		
授業の概要／Course outline	<p>漁業、養殖業を含む水産業は、魚など水産資源という再生可能資源を対象とした産業である。再生可能資源は、経済学の中でも重要な概念であり、近年はサステナビリティのために注目を集めている。海に囲まれた日本では伝統的に各地で水産業が発展してきたが、現在では生産量の減少や高齢化や人口減少などによる後継者不足など、衰退傾向にある。</p> <p>水産大国における日本において、水産業の研究は盛んに行われているが、そのほとんどは生物学、漁業技術、養殖技術などに関するものである。一方で、水産管理の先進国と言われる北アメリカやオセアニア、ヨーロッパの国々では、自然科学の研究はもちろん社会科学、とくに経済学の研究も盛んに行われており、政府機関などでも多くの経済学者が働いている。その理由は、水産業が産業であり、資源を管理するための政策をデザインするためには社会経済を理解する必要があるからである。</p> <p>水産資源の経済学は、経済学の中でも小さい分野であるため、環境経済学の中の1トピックとして扱われることが多く、世界的にも水産資源経済学を独立した授業として扱っている大学は少ない。武蔵大学では経済各論として、様々な分野の経済学を授業で取り扱うことができる。この機会を利用し、本講義では水産資源経済・管理の世界的トップ校であるワシントン大学・ブリティッシュコロンビア大学・ノルウェー経済高等学院で担当者が学んだ内容や行った講義をもとに、水産資源経済学の理論や実証の最前線を学部生向けにわかりやすく再構成した講義を行う。</p> <p>水産資源の利用はなぜ管理を必要とするのか？世界ではどのような考え方でどのような管理を行っているのか？日本がアイスランドやノルウェーと同じような管理をすべきというのは本当か？などといった、疑問に論理的に答えられるようになり、またそのための調査研究能力の基本を身につけることが目標である。ひいては日本で圧倒的に足りていない水産資源経済の分析ができる人材になりたいと志望するものは歓迎である。</p> <p>本講義では、基本的な数理モデルを扱うため、数学を用いる。しかし、基本的な考え方を会得するためのツールとしてであり、理解するためにデザインされた課題を提供するため、数学に自身がないものでも挑戦してもらいたい。いわゆる受験数学などの複雑な問題が解けないために単位が取得できない、ということはない。</p>		
到達目標／Learning objectives	水産資源経済の背景・問題・政策の基本的な知識を身につけ、効果的に調査研究できる。		
授業を通して身につく能力／Abilities to be acquired in this class	○幅広い教養 ○専門的知識		
PC等デバイスの持参／Bring your own PC or other device	小テストを行うため、PC、タブレット端末、スマートフォンなどインターネットからGoogle Formsにアクセスできる端末が必要である		
履修上の注意事項／Course guidelines			
-	授業計画／Class outline	授業外学修（予習および復習）／Preparation & review	目安時間（分）／

			Approx. time (min)
第1回／Class outline session 1	ガイダンス 水産資源経済学とはなにか？	授業資料の復習	120
第2回／Class outline session 2	生物経済モデル：水産資源経済学の基本的な考え方	授業資料の復習	120
第3回／Class outline session 3	水産資源の管理	授業資料の復習	120
第4回／Class outline session 4	個別漁獲割当制度の利点と課題	授業資料の復習	120
第5回／Class outline session 5	多魚種漁獲の経済学	授業資料の復習	120
第6回／Class outline session 6	年齢構成モデル：生物経済モデルの発展	授業資料の復習	120
第7回／Class outline session 7	養殖業と海からの食料	授業資料の復習	120
第8回／Class outline session 8	ローテーションモデル：養殖の生産	授業資料の復習	120
第9回／Class outline session 9	資源レントとはなにか？	授業資料の復習	120
第10回／Class outline session 10	水産物の需要分析	授業資料の復習	120
第11回／Class outline session 11	複数セクター問題：漁業か養殖か風力か	授業資料の復習	120
第12回／Class outline session 12	衛星データと水産資源管理	授業資料の復習	120
第13回／Class outline session 13	遊漁の経済学	授業資料の復習	120
オンラインで実施する授業の回数／Number of sessions to be conducted online	1回		
評価方法／Evaluation method			
種別／Category	割合／% (1～100)		評価基準等／Evaluation criteria
授業時間内に実施するテスト／In-class/mid-term tests	20	%	授業冒頭に10分程度の簡単なポップテストを計4回行う。  欠席や遅刻によってテストを提出しない場合は0点となるが、4回のうち最も良い2回のテストの点数のみ評価する。 (例：1回目に10点、2回目に8点、3回目を欠席し、4回目に6点だったとすると、1回目と2回目のみ評価し、小テストの成績は18点となる。)
授業への取り組み／Effort/Participation	20	%	授業への参加態度、質問等による積極的な参加
その他 1 / Other 1	60	%	課題： 授業内の内容に関する課題を学期中に3つ課す。すべての課題を提出すること。 課題は内容の正誤や優劣に加えて、課題を解こうとする努力も評価の対象とする。

評価方法に関する備考 ／Remarks for Evaluation method	ポップテストなど、不測の欠席等に対応した措置は講じているので基本的に考慮しない。（欠席連絡等は不要） 部活等で欠席が多くなるものが予測されるものは事前に相談すること。
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック／Feedback method	小テストは解答をすぐに公開する。 課題の解答なども公開する。
教科書／Textbooks	とくに指定しない
参考書／Reference books	Anderson & Seijo "Bioeconomics of Fisheries Management" 2010 Asche & Bjorndal "The economics of Salmon Aquaculture" 2nd ed. 2011 Clark "Mathematical Bioeconomics" 2nd ed. 2010 Hannesson "The economics of fishing" 2021 山下「魚の経済学：市場メカニズムの活用で資源を護る」2012
URL	
補足情報／ Supplementary information	
備考／Remarks	